

ナース★アクション全国交流集会 2025 冬 概要報告

◆ 2025年12月15日(月)17時~18時 オンライン開催 165人参加

進行 宮川喜与美さん(理事)

◎はじめに

全国各地における看護師確保・定着をめぐる現状や実践を共有し、今後の運動や取り組みの方向性を確認することを目的として開催した。オリエンテーションの中で、医療介護総合確保基金引き上げの成果を確信に、全県連で自治体へ働きかけることが呼びかけられた。

◎開会あいさつ

須田看護委員長は、看護を取り巻く情勢が一層厳しさを増す中で、現場の実態を可視化し、声を集め、社会や行政に届けていくことの重要性を強調。また、看護師不足は個々の医療機関の努力だけでは解決できない構造的課題であり、全国的な連帯と継続した取り組みが必要であることを呼びかけた。

■第I部では、県連的な取り組みを進めている3つの県からの活動報告をいただいた。

①岐阜勤労者医療協会 看護部長 宇野麻子さん

県内病院を対象としたアンケート協力をお願いし県内の4割に当たる96病院から回答が寄せられた。調査結果では9割もの医療機関で看護師不足が常態化し、看護師不足により運用できていない病床は、合計486床(6.4%)であることなど、病床休止や制限を余儀なくされている実態が共有された。処遇改善や奨学金制度の課題、地域間の看護師流出など、看護師確保を困難にしている要因が明らかにされた。

②奈良・土庫病院 総看護長 下澄子さん

“医師・看護師の増員を求める奈良県実行委員会”を約20年前に結成し、共同して継続して実施されている看護職員の労働・健康実態調査の報告があり、慢性的疲労や強いストレス、退職意向の高さなど、深刻な状況が明らかにされた。また、この調査が行政の施策に反映されている事が大きな特徴として強調された。鍵は、奈良県で働く看護師がいきいきと働き続けられる、必要な看護師を確保・育成するという共通の目標に向かって、看護協会や行政のふところに飛び込んで共に解決の道を探って来た積み重ねがある。

③ナースアクション福岡 代表 坂本幸穂さん(親仁会 看護部長)

博多駅頭での大規模な宣伝行動が地元メディアに取り上げられている事とともに、訪問看護ステーションを対象とした調査結果などをもとに看護協会や県当局と懇談していることが報告されました。調査結果からは、訪問看護ベースアップ評価料の不十分さや、経営の厳しさ、看護職員確保の困難さといった現場の課題が浮き彫りにされた。

■第II部では、保育現場および看護師養成校からの報告が行われた。

①全日本民医連保育世話人会 代表 川上隆子さん(熊本：菊陽ぽっぴ保育園 園長)

保育現場から、医療・看護を支える基盤として、子育て世代が安心して働き続けられる環境づく

りの重要性が報告された。院内保育や地域における保育の役割が、看護職員の定着や就労継続に大きく寄与していることが共有された。

②東京勤医会東葛看護専門学校 副校長 山田かおるさん

看護師養成校からは、学生の学びや進路選択をめぐる現状が報告され、学業と生活、将来への不安を抱えながら学ぶ学生の姿が紹介された。看護の魅力や社会的意義を伝え続けることの大切さ、そして現場と教育の連携の重要性が改めて確認された。

◎liveQ より

『看護が動くと国や自治体を動かす。今日報告していない全国の取り組みはあると思いますが、地域医療を守るために私たちの法人も行動を起こしていきたいと思います。そして看護を目指す学生の思いが叶う医療現場であり続けられるようにアクションを起こしていきたい』などと、参加者からは、看護師不足や処遇改善の問題を、内部で抱え込まず、社会全体の課題として発信していく必要性が多く出された。

◎閉会あいさつ

坂田副会長は、本交流会で共有された実態や声を今後の運動につなげていくこと、また各地の取り組みを学び合いながら、看護師が誇りとやりがいをもって働き続けられる環境づくりを進めていく決意が述べられ、来年1月27日の国会行動に向けて各県連での取り組みを強めることを呼びかけた。

医師・看護師の増員を求める奈良県実行委員会って？
実行委員会発足のきっかけは **2007年発足**

奈良県の周産期医療の脆弱さ。更にその背景には、医師、看護師の不足が

奈良 妊婦転送 18病院拒否
手術は60分、先の大出血で死亡

意識不明 6時間放置

処置遅れ出産後死亡
病院収容に6時間 転送拒否18件続く

博多駅前➡

